

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1998. 6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 170

日本野鳥の会 埼玉県支部

今月は皆さんの声が特集です

大阪単身赴任探鳥事情II

新井 巖(大阪府)

1年の筈の単身赴任が2年を越えたというのに人事からは一向にお呼びが掛からへん。このままやと埼玉の皆さんに忘れられてまう思うてこれ書いてますねん(え?言葉ヘンでっか?)。

とにかく休日は気楽なものである。庭木の消毒も、洗車も、買い物運転手も、水道の水漏れ修理も、ナーンもしなくていい。洗濯は夜すればいい。掃除は雨が降ったらすればいい。降ってなければ鳥を見に行くだけ…だから布団はめったに干せない。

大阪支部は13の定例探鳥会を開いているので、土地勘のない私にはありがたい。交通の便も良いのでせっせと出掛けていく。2年間で13ヶ所全部に3回以上参加したが、こんな人は少ないようで、よほどの鳥キチ(あるいはヒマ人)と思われるらしい。

鳥仲間もできて珍鳥情報も頂けるようになり、自己記録も30種以上増えた。オガワコマドリでしょ、サンコウチョウでしょ、ホシムクドリでしょ…ア、うらやましがらせてるのとちやいませ。

たかだか2シーズンの、限られたフィールドでのことなので見間違いがあるかもしれないが、大阪と埼玉(ア、偉そうにスイマセン深谷周辺に訂正)の鳥相の違いで感じたことを挙げてみると、ケリは多いがタゲリは少ない、コシアカツバメは見られるがイワツバメ



オガワコマドリ (外園 たけの)

は見かけない、ウミアイサはいるがカワアイサは珍しい、ミサゴ、ハヤブサよりノスリ、チョウゲンボウの方が喜ばれる、トビも少ない、ホオジロが目立たない、オオジュリンは多い。カンムリカイツブリは普通種で、冬は数10羽単位で見られ、春はきれいな夏羽の群が見られる。他にイカル、ベニマシコ、ミヤマホオジロ、ツリスガラ等が比較的普通に見られる…等々。

今年はまだ珍鳥だったツクシガモが南港で52羽も越冬した。諫早湾干拓の影響と見られており、喜んでみられない。40羽以上のイスカが飛来した能勢町は、イスカでなくダイオキシン汚染で有名になってしまった。

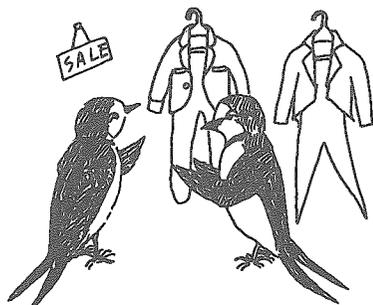
地球環境の破壊に歯止めが掛かり、日本の豊かな自然が守られ、埼玉県支部の皆さんと末永く一緒に鳥を見られることを願う今日この頃でんねん…ホンマ。

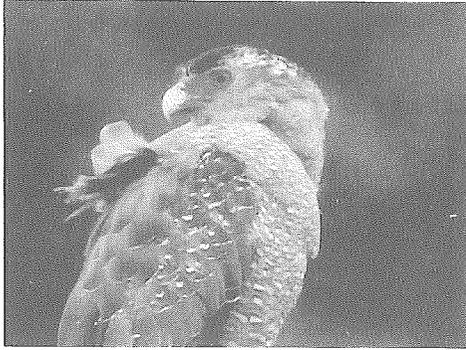
カンムリワシ、ムラサキサギ

藤掛保司(川越市)

本部主催のネイチャースクール「カンムリワシを訪ねて、石垣島・西表島」というツアーに参加しました。

3月13日(金)から15日(日)まで、2泊3日の旅でしたが、埼玉県ではまだ肌寒さを感じるころ、八重山諸島ではTシャツ姿。夕食を食べる時に、あまりの蒸し暑さに冷房を





カンムリワシ (佐藤 進)

入ってしまった事もありました。春分の日には、早々と海開きをするそうです。

イシガケチョウやオオゴマダラなどの蝶類やトンボが飛び交う姿に、季節感を忘れてしまいました。

田植えも終わり、砂糖きび畑では、収穫用のトラクターが走り回っていました。トラクターの周辺ではアマサギやチュウサギの群れが餌取りに懸命で、近くの本立から、カンムリワシもサギ達の仲間入りをしました。

ムラサキサギや、亜種の違いから埼玉県にいるものとは色合いが違うシジュウカラ、ヒヨドリなども、十分に堪能できました。

(編集部：同じ頃に一人で撮影旅行に出かけた佐藤進氏からは、ビデオプリントが多数寄せられました。)

あさひカード探鳥会

大坂幸男 (上尾市)

今年のあさひカードの探鳥会は、千葉県行徳野鳥観察舎で開催され、私もリーダーの一員として参加しました。

私はこの探鳥会に思い出があります。今からちょうど4年前、武蔵丘陵森林公園で催された同会に参加して、野鳥の美しさ(特にオシドリ)に魅せられ、バードウォッチングの素晴らしさを知りました。そしてその年の7月に野鳥の会に入会しました。

今回はその立場が逆転した訳です。

第一班のリーダーとして、早速、双眼鏡のピント合わせを説明します。緊張してのスタートです。観察舎の前の川にハシビロガモ、土手にセグロカモメ、ユリカモメ。肉眼

ヒナを拾わないで!

(財)日本野鳥の会と(財)日本鳥類保護連盟が、環境庁の後援でキャンペーン展開中。

まだうまく飛べないヒナが、地面に降りているのが目立つ季節になりましたが、決して拾わないで、その場から離れましょう。親鳥は必ず戻ってきてヒナの世話をします。人がそばにいますと、親鳥がヒナに近寄せません。

猫や車の危険がある時は、近くの本の枝先にとまらせて、無事を祈りましょう。

人間が、ヒナが自然の中で自立できるように育てることは、大変難しいことです。

ヒナを拾わないで!



ムラサキサギ (佐藤 進)

で見える距離だったので説明がしやすい。歩き出すとオオジュリン、これは動きが早く、スコープに入れて急いで見てもらう。

当日は保護区内に立ち入り許可が出ているので入っていく。緊張がまだほぐれていない。前日に下見をしているのに、コースを間違ったが、同じリーダーのアドバイスで助かる。

出現鳥は、カイツブリ、ノスリ、カモ類など40種。その中で一番嬉しかったのは、最後にカワセミが出て、第一班の人達だけが見ることができ、歓喜されたときでした。

なんとも心許無いリーダーでしたが、4年前の埋め合わせができたと思って、ほんとした探鳥会でありました。

やったぞバードソン77種!!

去る5月10日(日)にバードソン98が開催されました。埼玉県支部チームも県下縦断コースを12時間で駆け抜け、確認鳥種77種(次ページ)という大成果で無事終了いたしました。

募金に、当日のサポートにと、皆様のご支援のたまものです。

スタート地点となった神泉村の村営下久保コテージにメンバー、サポーターが集めたのは早朝4時半。シャワーと表現するのがふさわしい程の鳥の囀りの中、城峰公園に出発したとたんにサンコウチョウが目の前を通過、幸先のよさを予感しました。

今回のバードソンは、午前中に確認種類数を稼ぎ、午後はイベント重視という作戦を練りました。大麻生の定例探鳥会に合流するまでに100km以上移動し、ひたすら鳥影を追い求めました。

大麻生と三室ではバードソンチーム確認鳥種予想のゲームを行ったり、オークションを行うなど、参加するバードソンの企画を実施しました。その模様はテレビ埼玉によって取材され、5月13日(水)に放映されました。

また、森林公園では「武蔵丘陵森林公園を守る会」の皆様と合流し、公園主催の観察会に短い時間ながら参加させていただきました。



三室のオークションで6万円ゲット!



○チームメンバーの感想

浅見 徹(記録)

楽しかった! 夜明けに一斉に囀りだした小鳥達、やっと見つけたシラコバト、応援して下さった皆様等々、全てに感謝します。

島田恵司(メンバー)

朝5時、神泉村の新緑にしみわたる小鳥たちの合唱。それが私たちチームの一步でした。彩の里山、再発見そのものです。鳥、人、自然との出会い、私にとって貴重な12時間でした。

高 剋彦(メンバー)

予想を超える鳥がカウントでき、ご支援いただいた皆様のおかげで、とても楽しい一日を過ごすことができました。

課題は鳴き声での識別能力のアップです。

入山 博(ドライバー)

出現鳥77種と、スケジュール通りに行動できたことに大満足です。ゴールの三室で飲んだビールがとても美味しく感じました。

また、機会があれば80種に挑戦したいと思います。

高 文子(サポーター)

心に残ったバードソン。懐かしい山間の分校あとの宿。夜明けのバードハミング。鴻巣の小学校でねばった末にやっと出たシラコバト。

皆様我心より感謝です。

(文責 橋口長和リーダー)

野鳥記録委員会最新情報

■サバンナシトド (別名クサチヒメドリ)

目科 スズメ目ホオジロ科

学名 *Passerculus andwichensis*

英名 Savanna Sparrow

新聞報道によると、伊奈学園高校教諭の小峯昇氏が蓮田市内の水田で本年3月初旬に発見し、写真撮影したとのこと。

発表以来、多くの人が同地(蓮田市関戸)を訪れて観察、写真撮影などをして、当委員会には、3月29日(日)に撮影された佐藤進・菱沼一充両氏のビデオ映像と、樋口信之・高畑法両氏の写真などが送られてきた。

それらの資料に基づき検討した結果、サバンナシトドとして記録することとした。

なお、新聞報道には、「県内での公式記録はなく、初めての確認記録である」という記載がされているが、1991年11月13日に浦和市秋ヶ瀬でバンディング調査中の上田恵介・内田博・岡崎立の3氏によって捕獲された1羽が、山階鳥類研究所の茂田良光氏によってサバンナシトドの雌と同定されたことがあり、本誌1993年8月号で、当委員会からの情報として発表した。したがって、今回の記録は、県内2例目の確認記録である。

なお、本種の和名は、本誌1996年3月号でも解説したように、日本鳥学会が1974年に発表した『日本鳥類目録第5版』の、「観察報告はあるが、まだ正式に目録に入れない鳥の

日本野鳥の会埼玉県支部野鳥記録委員会

リスト」の中に、サバンナシトドとして掲載されており、1982年に発行された日本野鳥の会の『フィールドガイド日本の野鳥』では、その和名が採用された。

一方、1986年に発行された山階芳麿著『世界鳥類和名辞典』ではクサチヒメドリとなっており、1988年に発行された日本鳥類保護連盟の『鳥630図鑑』では、その和名を採用している。

当委員会としては、鳥学会目録の和名を採用する日本野鳥の会の方針に準拠し、サバンナシトドという和名で記録する。

本種は北米大陸に生息し、日本には稀な迷鳥として数回程度の記録がある。文献によっては16あるいは21の亜種に分かれているというが、今回記録された個体が、どの亜種であるかは同定できない。



サバンナシトド (佐藤 進)

○バードソン確認鳥種リスト カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、オナガガモ、ホシハジロ、トビ、オオタカ、サシバ、チョウゲンボウ、コジュケイ、キジ、バン、イカルチドリ、ムナグロ、ハマシギ、クサシギ、キアシシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、アジサシ、コアジサシ、シラコバト、キジバト、アオバト、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、ヤマセミ、カワセミ、アオゲラ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、サンショウクイ、ヒヨドリ、モズ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、シロハラ、ヤブサメ、ウグイス、オオヨシキリ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、センダウムシクイ、セッカ、キビタキ、サンコウチョウ、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス (以上77種。三室の鳥合わせでは75種と報告しましたが、リスト外のアカハラとヤブサメが落ちていました。)



滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇1月27日、山田大沼でトモエガモ♂1羽。2月4日にもトモエガモ♂1羽(中村豊己)。◇2月26日、ピンズイ10羽。カシラダカ群れ中にミヤマホオジロ。シロハラを確認中、すぐ目の前にルリビタキ♂1羽。鮮やかな色にすっかり感激(小林ますみ)。

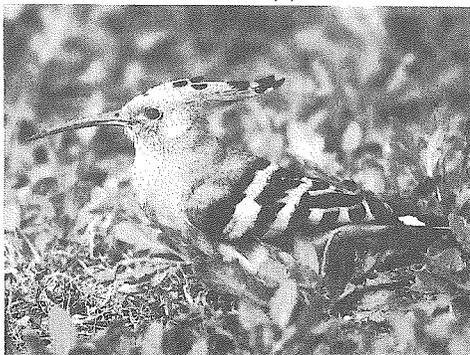
吉見町八丁湖 ◇1月30日、アカゲラ2羽、ジョウビタキ2羽、ルリビタキ2羽(中村豊己)。

川越市入間川 ◇1月30日午後4時30分頃、東武東上線陸橋と川越橋間でコミミズク2羽。1羽は、左岸にとまり、もう1羽は、飛び立って、枯れ草の中に隠れてしまった。2月2日午後4時30分頃にも同所でコミミズク1羽、ノスリ1羽(竹ノ谷房代)。

東松山市大谷 ◇1月30日、自宅前の栗畑でミヤマホオジロ♂1羽。以後3日間続けて午後4時頃に飛んできた。ホオジロ、カシラダカと行動を共にしており、ねぐらに帰る前に立ち寄ったらしい。コタツの中から少し贅沢なトリ見であった(中村豊己)。

坂戸市城山 ◇2月27日、ウグイスの初鳴き。まだ「ホーホケキョ」ではなく、「ホ・ケキョ」(増尾隆)。

与野市鴻沼排水路 ◇3月1日正午頃、西谷橋付近でカワセミ1羽。川面をうかがい、とびこむ。3月13日、カワセミ1羽、コゲラ1羽。比較的市街地に近い所で、数年間来ていて初めてのことだった(伊藤龍彦)。



ヤツガシラ(中国にて、外園たけの)

川本町荒川明戸堰 ◇3月7日、コハクチョウ85羽。昨年より約10日早く、第一陣が立ち。ミヤマホオジロ7羽、ニセアカシアの林の縁にて採餌。アトリ2羽、アオジ1羽、ジョウビタキ♀1羽、アカゲラ♀2羽、オオタカ、ハイタカ、ノスリ各1羽、オオバン1羽。気温も随分上がってきたので、ホオジロ、カシラダカのさえずりが多く聞かれた。3月22日、ツバメ3羽、オオバン2羽、イカルチドリ1羽、イソシギ1羽、カワセミ♂♀各1羽。コハクチョウは、3月11日に全て北へ帰った(後藤康夫)。

春日部市内牧 ◇3月8日、カシラダカ6羽(芳川伸一、リリィ)。

浦和市秋ヶ瀬 ◇3月9日、ツバメ1羽、ユリカモメ1羽(芳川伸一、リリィ)。◇3月29日午前7時30分、秋ヶ瀬公園から北へ1km程の田んぼの端でヤツガシラ1羽(オルソン ジェイムス)。◇3月29日午後2時30分～4時30分、大久保農耕地でヤツガシラ1羽。土手の下の方の砂利道際を移動しながら餌をさがしていた。タシギ1羽、コチドリ2羽(石塚文雄、孝子)。

狭山丘陵いきものふれあいの里センター ◇3月11日、ウグイス初鳴き。4月12日、アカハラさえずり、センダイムシクイ初認(小林茂)。◇4月18日、ヤブサメ、コマドリ。コマドリは、当地初認(小林ますみ)。

坂戸市高麗川 ◇3月13日、ヤマセミ♂♀各1羽。2年ぶりに戻ってきた(増尾隆)。

東松山市都幾川 ◇3月14日、稲荷橋周辺でカワセミ4羽、クサシギ1羽、カシラダカ約80羽、アオジ4羽、ツグミ20羽、シメ15羽、カオグログガビチョウ3羽。ウグイスのきれいなさえずりを聞く。4月4日、ツグミ30羽、カシラダカ15羽、シメ6羽、カワセミ3羽。カオグログガビチョウのさえずりが際立っていた(後藤康夫)。

秩父市羊山公園 ◇3月19日、ツバメ初認。ベニマシコ♀1羽、カシラダカのさえずり(小林ますみ)。

川越市安比奈地区 ◇3月21日、入間川でハヤブサ1羽。ハシブトガラスが、まとわりついて行ったが、逆に反撃に遭い、逃げ惑

っていた。また、今年の初めから3月中旬にかけてノスリが1羽居ついている(石井幸男)。

岩槻市と越谷市境の県営しらこぼと水上公園

◇3月21日、事務所(入口)前広場近辺でシラコバト16羽(大塚操)。

小川町槻川 ◇3月21日、割谷橋周辺でヤマセミ♂♀各1羽。イワツバメ10羽。3月22日、イワツバメ20羽、オオタカ1羽。4月19日、島根橋付近でオオタカ2羽(後藤康夫)。

越谷市営しらこぼと運動公園 ◇3月27日、シラコバト31羽(大塚操)。

所沢市山口 ◇3月27日、アカハラのさえずり。自宅付近では初めて。4月20日、アオジ2羽(小林ますみ)。

東松山市物見山 ◇3月28日、ビンズイ3羽、シロハラ1羽(後藤康夫・喜久子)。

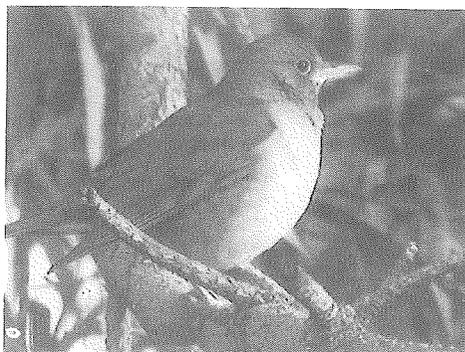
東秩父村二本木峠 ◇3月29日、オオタカ2羽、イカル20羽、シメ50羽、ツグミ60羽。

二本木峠キャンプ駐車場手前300mの所でイカル、シメ、ツグミが混在し地上で採餌していた。ルリビタキ♂1羽、アトリ1羽、マヒワ2羽、ヤマガラ3羽、エナガ6羽、カケス1羽、アカゲラ♂1羽(後藤康夫)。

大宮市南中野 ◇3月29日午後5時30分頃スーパーの屋上の給水塔の上でオオルリ♂1羽。盛んにさえずっていた(志賀敬)。

熊谷市荒川 ◇4月4日、熊谷大橋~荒川大橋間でイワツバメ15羽、オオタカ、ノスリ、チョウゲンボウ各1羽、ゴルフ場内の松林でビンズイ2羽(後藤康夫・喜久子)。

嵐山町菅谷館跡 ◇4月5日、アオゲラ2羽、コゲラ2羽、マヒワ2羽、カシラダカ10羽、エナガ1羽、シメ10羽(後藤康夫・喜久子)。



アカハラ

横瀬町県民の森 ◇4月5日、マヒワ10羽。

谷の斜面で採餌していた。ルリビタキのさえずり。コガラのさえずり。4月19日、ヤブサメ、ツツドリ、センダイムシクイ、クロツグミ。クロツグミは、高木でのさえずり、地面での採餌。沢筋でしっかり観察した(小林茂・ますみ)。

長瀬町岩根山神社 ◇4月10日、センダイムシクイのさえずり(小林ますみ)。

利根大堰 ◇4月15日、ハイイロヒレアシシギ4羽。写真なし(井上茂)。

戸田市道満 ◇4月16日、彩湖でオオヨシキリ1羽、初認(高橋達也)。◇4月21日、釣り堀の西側の林でセンダイムシクイ1羽。彩湖北側の棧橋近くの浮きの上でコアジサシ1羽。道満北駐車場でササゴイ1羽。木の上からオナガに追い出されて北に飛んで行った(倉林宗太郎)。◇4月27日、彩湖でアマサギ2羽(高橋達也)。

戸田市戸田橋付近 ◇4月16日、荒川河川敷で12羽。4月28日、キョウジョシギ1羽。当地初記録(高橋達也)。

熊谷市大麻生 ◇4月18日、アトリ10数羽(後藤康夫)。

表紙の写真

セイトカシギ(セイトカシギ科)

1997年8月、県東部杉戸町の遊水池横の休耕田でセイトカシギ(成鳥・雌)を撮影しました。

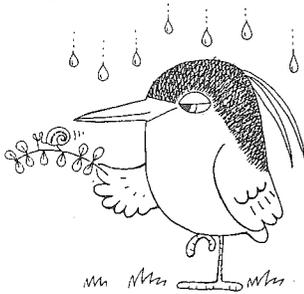
海岸近くの干潟や河口で1970年代からよく見られるようになったセイトカシギも、内陸

の埼玉ではめずらしく、このような身近な場所で見られてとても幸運でした。

赤くて長い足が印象的です。

宇恵昭良(草加市)

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月7日（日）

集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場。または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口、集合後タクシーで現地へ。

リーダーの指示で分乗してください。

担当：岡安、内藤、榎本、立岩、永野（安）、永野（京）、川那部、島田、大坂、高、山田

見どころ：朝もやのなかにカッコウの声が響きます。アシ原をヨシゴイが飛び、高尾の池ではバンとカイツブリが子育ての真最中です。繁殖期の親子への心づかいを忘れることなく観察しましょう。見て聞いて味わう石戸宿へお出かけください。

調整池でカルガモの親子も見られたら、これまた最高です。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月14日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、中島（章）、石井（博）、倉崎、松本、中里、高橋

見どころ：天気が気になる時期、こんなときにはフィールドに出て身体を伸ばしましょう。アシ原ではさえずるオオヨシキリ、流れの中ではササゴイ、上空にはコアジサシのスマートな飛行が見られそうですよ。

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：6月7日（日）

集合：午前9時 浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前

交通：JR浦和駅西口バス1番乗場、大崎園芸植物園行き8:36発に乗車、念仏橋下車

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、新堂、笠原、吉岡、若林、倉林

見どころ：背丈の伸びたアシ原で鳥たちは子育てに追われています。オオヨシキリの賑やかなさえずりのなかで、ヨシゴイをみごと見つけられたらラッキー！

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：6月21日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、笠原、倉林、若林、岡部、兼元、森

見どころ：今年もバードソンのゴールになり、支援のオークションも催された三室。春には郷土博物館で「見沼・その歴史と文化」の特別展が開かれて、大いに注目されている見沼たんぼです。

そんな見沼に緑を、芝川にカルガモと
パンの親子連れを見においで下さい。

坂戸市 高麗川探鳥会

期日：6月21日（日）

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8:24→坂戸にて越生線
乗換え8:43発、または寄居7:26→小川
町乗継ぎにて坂戸乗換え。JR川越線大
宮7:55→川越にて東武東上線乗換え

担当：藤掛、高草木、石井（幸）、青山、久
保田、志村、増尾、佐藤（壯）

見どころ：梅雨の真只中です。雨が心配です
が、過去3年間の天気は曇りでした。
必ず出現するカワセミの♂・♀の識別
をマスター。巣作りに戻ってきている
はずのヤマセミのつがい、皆の目で
探しましょう。

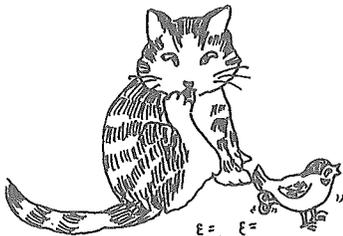
注意：時刻表が変わっていますのでお出かけ
前にご確認ください。

『しらこぼ』袋つめの会

とき：6月27日（土）1時～2時頃

会場：支部事務局108号室

案内：この会の参加者数は平均して15人位、
20人を超えることは年に1～2回程あ
ります。手狭な部屋ですが、入場制限
はしていません。堅苦しい雰囲気はな
く、ワイガヤのうちに終了です。後は
雑談もよし、鳥情報の交換もよし、と
いったところです。梅雨の盛りです
が、お出かけください。参加者募集
中。



上尾市 八枝神社探鳥会（夕方）

期日：7月4日（土）

集合：午後6時 上尾市平方八枝神社境内

交通：JR大宮駅西口 東武バス8番乗り場よ
り17:23発平方行きにて終点下車。

担当：櫻庭、阿久沢、丹、浅見（健）、立岩
見どころ：梅雨明け前のひととき、今年もア
オバズクの子育ての無事を祈って観察
会を開きます。夕方になると飛び立
ち、親は盛んに雛に餌を運びます。そ
とのぞいてみましょう。

注意：蚊の多いところです。防虫スプレーが
あると便利です。

樋口広芳教授受賞記念講演と映画の会

前常務理事研究センター所長で現理事の東
京大学樋口広芳教授が、鳥学の発展と鳥類の
保護に顕著な功績のあった人に送られる山階
芳磨賞を受賞しました。人工衛星を使ったツ
ルやハクチョウの渡りのルート調査など、ユ
ニークな研究が評価されたものです。

山階賞の授賞式に合わせて、記念講演と映
画の会が開催されます。

日時：7月4日（土）午後1時～4時30分

場所：科学技術館サイエンスホール（千代田
区北の丸公園2-1、地下鉄竹橋駅1B
出口、九段下駅2出口から、ともに徒
歩7分）

記念講演：私の夢、鳥の渡りの研究

映画：ダース

参加費：500円

申込み・問合せ：〒272-0827市川市国府台2-
8-30、東京医科歯科大学教養部生物学
教室、講演と映画の会実行委員会、和
田勝。

TEL兼FAX ☎

6月15日までに往

復はがきで申し込みを。

行事報告



2月14日(土) 茨城県 菅生沼&浮島

参加: 24人 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ ヒシクイ コハクチョウ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ トビ オオタカ ノスリ ハイイロチュウヒ チュウヒ コジュケイ バン オオバン イカルチドリ タゲリ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (48種) 菅生沼ではコハクチョウ250羽以上が近くで見られ、木に止まっているオオタカ、ノスリも見られた。江戸崎では、オオヒシクイ20羽とハイイロチュウヒ♀1羽を見ることができた。浮島では、草原上を低く飛ぶチュウヒを堪能できた。バス旅行ということで和やかな探鳥会ができた。

(中島康夫)

2月28日~3月1日(土~日) 茨城県 湊沼&いわき海岸 参加: 25人 天気: 28日=晴、1日=雨

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ アカエリカイツブリ カンムリカイツブリ オオミズナギドリ カワウ ウミウ ダイサギ コサギ アオサギ オオハクチョウ コハクチョウ マガモ カルガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロ ハジロ スズガモ クロガモ シノリガモ ミコアイサ ウミアイサ カワアイサ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ コジュケイ キジイカルチドリ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ワシカモメ シロカモメ ウミネコ キジバト コミミズク ヤマセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ ツグミ ウグイス シジュウカラ

メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (68種) 1日目はまずまずの天気だったが、2日目は低気圧の通過で強風と雨。海は大荒れで探鳥どころではなかった。1日目のいわき海岸ではシノリガモ、クロガモ、ウミアイサ、アカエリカイツブリが間近で見られた。宿の前を流れる那珂川ではヤマセミが見られた。2日目の大洗、湊沼は強風で鳥があまり出なかった。それでも、鳥合わせをしてみると68種。海なし県の我々にとって、いわき海岸はいつ行っても良いところだ。

(中島康夫)

3月1日(日) 寄居町 玉淀河原

雪のため中止。

3月1日(日) 浦和市 秋ヶ瀬公園 子供の森

雪のため中止。

3月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 24人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ トビ チョウゲンボウ キジ バン オオバン イソシギ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 前日強かった風もおさまり、まずまずの天候。スタート直後から、期待していた鳥が次々と登場して快調。いつもの林でアカゲラが登場。しばらく動かないでいてくれたので、全員堪能。いつになくカシラダカが多かったのと、前月に続いてシメの姿が目立った。明戸堰では旅立ち間近なコハクチョウに別れの挨拶。昨年12月に当地の探鳥会にデビューしたオオバンは今回も見られた。

(森本國夫)

3月8日(日) 大宮市 染谷見沼自然公園

参加: 36人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ
ホシハジロ ノスリ タシギ キジバト コゲラ
ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ
ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (32種) 桜のつぼみもふくらみ始め、
見沼に春の訪れが感じられる快晴の中をスタート
した。旅立ち間近な冬鳥たちもよく挨拶に出てく
れ、上空にはノスリも出現した。バードソンメン
バーの浅見(徹)リーダーより、参加者の皆さん
に募金のお願いをして無事終了した。

(工藤洋三)

3月8日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 36人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ
オオタカ ノスリ コジュケイ クイナ バン
イカルチドリ イソシギ キジバト ヤマセミ
カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセ
キレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ
ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種)
朝の集合に川辺のカワセミも参加。全員心を残し
ながらカワセミに見送られて出発した。梅の花に
見とれる上空にオオタカ、ノスリが飛ぶ。なんと
いってもメインは1年ぶりに戻ってきたヤマセミ。
終わりよければ全てよしの笑顔になって解散。

(高草木泰行)

3月15日(日) 浦和市 三室地区

参加: 78人 天気: 曇後大雨後曇

カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ
オナガガモ ホシハジロ バン ユリカモメ キ
ジバト ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨ
ドリ アカハラ ツグミ ホオジロ オオジュリ
ン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス (23種) 1月、2月が雪で
中止のため、今回が今年の三室探鳥会の始まり。
天気予報は大雨で、リーダーだけでなく、参加者
の皆さんも心配だった。開始直後、すぐに横殴り
の雨と風が吹き荒れて、ほうほうの体で博物館に

帰った。臨時室内会を約1時間。野鳥の会の現状
や奄美などの鳥見の話、彩湖の話などしていたら、
青空がのぞいた。早速芝川と見沼たんぼ、久しぶ
りの片柳の斜面林沿いの道を歩いた。いろいろあ
ったが、久しぶりの探鳥会に78人の参加者は大満
足でした!?

(楠見邦博)

3月21日(土) 秩父市 羊山公園

参加: 45人 天気: 曇

トビ キジバト コゲラ セグロセキレイ ヒヨ
ドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ
ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メ
ジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ
カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カ
ケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(27種) 一昨年の夏は乾燥していて木の実が少な
かったので、昨年の冬は小鳥たちが少なかったと
いう。昨年の夏は気候が良かったので、木の実な
どがよくできて、北の国でも食料が十分だから、
この冬は渡り鳥たちが飛来していないという。い
ったいどういう時なら、いっぱい来てくれるのよ。
ぶつぶつ言っているリーダーの目の前に、100羽
以上のアトリの群れが現われてくれた。お目当て
のウソは、参加者の一部が声を聞いただけ。カシ
ラダカがさえずっていた。例年渡ってきているイ
ワツバメが見当たらない。

(海老原美夫)

3月22日(日) 長瀬町 宝登山

参加: 44人 天気: 曇

カワウ トビ オオタカ キジ キジバト アオ
ゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロ
セキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ウ
グイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカ
ラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ ア
トリ カワラヒワ マヒワ ウソ シメ スズメ
ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハ
シブトガラス (33種) カワラヒワの求愛行動を観
察。参道の桜の花芽もふくらんでいる。道端には
きれいなノジスミレの群落もあり、春を感じなが
らのスタート。山道にはアブラチャン、キブシ、
ミヤマウグイスカグラ、ツノハシバミといった木
々が色とりどりに花を咲かせていた。途中の東屋
で休憩していると、頭上のコナラで50羽位のマヒ
ワの群れもチーチーと休憩。山頂では、ウソ
やアトリの群れもゲットでき「いや〜! 春を満
喫」の声がしきりだった。

(小池一男)

連絡 中長

●支部総会のご案内

日時：6月28日(日)

午後1時受付開始

午後1時30分～2時30分 記念講演

午後2時30分～4時30分 総会

会場：浦和市民会館6階集会所

交通：浦和駅西口から県庁通りを県庁に向けて進み、埼玉会館の角を右折。玉蔵院境内を通り抜けた左側。徒歩7～8分。

記念講演：箱田敦只サンクチュアリセンター普及室長「センターの人材育成」

総会議題：平成9年度事業報告・決算報告

平成10年度事業計画案・予算案

平成10年度役員選出

参加資格：支部会員に限りませんが、支部会員であれば、どなたでも参加できます。ご意見をお聞かせ下さい。総会后、支部事務局での懇親会も計画中です。

●カスミ網再導入の動きに要請書提出

日本野鳥の会が総力をあげて運動し、1991年(平成3年)に「特定猟具」に指定されて、所持や販売も禁じられたカスミ網を、有害鳥獣駆除のために再導入しようという自由民主党農林漁業有害鳥獣対策議員連盟の動きが明らかになり、本部保護調査センターの呼びかけに応じて当支部は、松井昭吾支部長の名で、

1. カスミ網は「特定猟具」であり、引き続き所持・使用・販売を禁止すること。
2. 特定猟具に関する事務は、引き続き環境庁長官の権限の下に置くこと。
3. カスミ網を用いた密猟について、取り締まりを一層強化すること。

という要望書を、5月6日、環境庁長官、自民党総裁、同議員連盟会長・幹事長、自民党環境部会長・部会長代理2名・当県選出委員2名の計9名に送りました。

●会員たちの普及活動(敬称略)

1997年11月16日(日)～1998年3月15日(日)

蓮田市中央公民館バードウォッチング教室、

4回。講師：中島康夫、指導：松井昭吾・桜

庭勇・中村榮男・玉井正晴・新堂克浩・田中幸男・吉田芳晴。

2月15日(日)大宮市アーバンみらい東自治会探鳥会。指導：中島康夫・玉井正晴・田中幸男・吉田芳晴。

3月29日(日)坂戸市鶴舞まちづくり委員会高麗川河川改修勉強会第4回野鳥観察会。指導：増尾隆・増尾節子・黒木昭雄・坂口稔・坂口和子。

4月5日(日)、5月3日(日)NHK川越文化センターバードウォッチング講座。講師：藤掛保司、指導：佐久間博文・内田孝男・渡辺泰子・海老原美夫・海老原教子。

4月25日(土)秩父愛鳥会総会で講演「海外における野鳥と人との関係」海老原美夫。

5月3日(日)日高市環境保全課主催の自然観察会。講師：吉田時規、指導：陶山和良。

●6月の事務局 土曜と日曜の予定

6日(土)普及部会議。

13日(土)編集会議、研究部会議。

20日(土)校正作業。

21日(日)役員会議。

27日(土)袋づめの会。

●会員数は

5月1日現在2,986人です。

活動報告

4月1日(水)と28日(火)本部の会費制度改訂等委員会に出席(海老原美夫)。

4月18日(土)5月号校正作業(海老原美夫・喜多峻次・桜庭勇)。

4月19日(日)役員会議(司会：玉井正晴、講演や行事の協力依頼・新年度役員など)。

編集後記

今回から、住所変更などの連絡先を奥付に明記することにしました。よろしく願います。ただし、役員・リーダーの方は、会員センターと同時に、支部事務局の方にもご連絡下さい。……すみません。編集後記というより、事務連絡になってしまいました。(海)

『しらこぼと』1998年6月号(第170号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市長岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒150-0036 渋谷区南平台町15-8 ウッディ南平台ビル2階
(財)日本野鳥の会会員センター TEL 03-3463-8842 FAX 03-3463-8844

印刷 関東図書株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用